

墓を撤去して敷地を返還する「墓じまい」や、墓じまい後に遺骨を居住地の近くの墓などへ移す「改葬」が増えている。墓じまいに伴い、古い墓石を寺などに安置したり、数珠などに加工したりする取り組みも広がっている。いったん廃した墓石を残す人たちの思いを聞いた。

(斎藤圭史)

## 生活 調べ隊

愛知県豊田市の市街地から車で30分ほどの山中にある妙楽寺。境内の一角の斜面に、墓石がひしめくように並んでいる。墓じまいに伴って不用になった墓石の安置所だ。「いわば『お墓のお墓』。ざっと2万基はあります」と、住職の鈴木政彦さんが説明す

## 墓石 砕かず安置



真新しい墓石、文字が消えかかっている古い墓石、廃寺に伴って運び込まれた仏像などが並ぶ安置所。「2万基のお墓には2万の事情と意思がある」と話す鈴木さん(愛知県豊田市の妙楽寺で)

る。大半は、管理できなくなった、後継ぎがないなどの理由で持ち込まれたものだ。約40年前の受け入れ開始当初は年10基に満たなかったが、平成に入ってから急増。ここ4〜5年は、東海地方を中心とする各地から年4000〜5000基が運ばれてくる。新型コロナウイルスの影響で

## プレートや数珠で手元に



岡山県の主婦が製作を依頼したプレート(美匠提供、画像は一部修整しています) ①墓石を加工して作った玉を用いた「縁添珠」。右が男性用、左が女性用



墓参りが難しくなってきたから、さらに問い合わせが増えている。永代供養料は墓石の大きさによって異なり、7000円〜5万円ほど。搬入順に墓石を並べて安置し、鈴木さんが毎月、読経する。「墓じまいしても先祖への思いが強い人が利用することが多い」と鈴木さん。読経する供養日に手を合わせに来る人もいる。墓じまいの工事を年間約800件受注する墓石解体業の美匠(奈良)は、三重県内の2か所に墓石の「永代供養安置所」を設けている。定期的な清掃や僧侶の供養の費用は1基あたり1万円。この10年間で計2万基を受け入れた。厚生労働省によると、「改葬」は2018年度に11万5384件あり、08年度の7万2483件から大幅に増加。

「墓じまい」も含めると、さらに多くの墓が撤去されたとみられる。役目を終えた墓石は産業廃棄物として砕石処理されるのが一般的だが、抵抗感を抱く人も少なくない。一般社団法人「全国優良石材店の会」(全優石)が18年に全国の20歳以上の男女4128人に墓じまいの印象を聞

いた調査では、5人に1人が「先祖に申し訳がない」と回答した。全優石会長の吉田岳さんは「墓じまいの理由は様々。たんなるモノとして始末できない人もいる」と話す。

墓石を加工して身近に残すサービスもある。美匠は、古い墓石を切削して作ったプレートに、好みの文字を刻む「証」というサービスも手がける。岡山県の実主婦(60)は昨秋、中国地方にある実家の墓を撤去。母の遺骨は生前大好きだったという海に散骨し、先祖の遺骨は合祀した。残った墓石で高さ15センチ、幅17センチ、厚さ7センチのプレートを作り、健在の父が選んだ「南無」の文字を刻んだ。「母や先祖とのつながりを形に残すことができよかった」

「縁添珠」と銘打った数珠を販売しているのは、神戸珠数店(京都)。墓石を直径1センチほどの球形に切削して磨き上げ、水晶などと一緒に組み上げる。岐阜県の実主婦(60)は2年前に墓じまいをし、墓石で縁添珠を作った。「墓をなくしていいものか悩んだが、手元に数珠として残せることで決断できた」

葬送事情に詳しい元東洋大教授の井上治代さんは、都市部への人口集中や少子高齢化などを背景に、墓じまいや改葬を考へざるを得ない時代になったと指摘。墓石の安置やリメイクについて、「自身や家族らが納得するために登場した取り組みで、様々な形態があつていい」と話す。

一方、墓を巡る問題は、今後さらに深刻化すると予測。「墓の継承を前提にした既存の制度を根本から見直す時期だ」と語る。

## 身内が精神疾患 冷たい世間

40代の主婦。精神疾患のきょうだいがいます。医療機関は受診していますが、すぐによくなくなるといふものではありません。世間の目は厳しいです。

近隣住民からは幾度となく苦情が届きました。行政に相談しても「病院に行ってください」「病院に連れていくのがどれだけ大変か、知らない人は全く知りませぬ」。

「普通」とは何なのでしょうか。法に触れ

る行為をしたら処罰されるべきでしょうが、いわゆる変わった人が迷惑行為をしたときには、病気として治療を受けやすい世の中になるべきではありませんか。自分を「普通」だと思っている人たちが、その意識を共有してほしいと強く思います。

表から見えてくても、耐えて苦しんでいる家族は多い。それでも何とか踏ん張って生きている。それを皆さんに知ってほしいです。(神奈川・F子)

## 人生案内

最相 葉月

(ライター)

366日 記念日事典

日が話題になる機会が増えている。4年ぶりに改訂した事典には、第3版以降に登録された約850件を加えた計2362件の記念日を掲載した。加瀬さんは「記念日には社会の姿が反映されている。『今日は何の日だろう』と本を見てもらえるとうれしい」と話す。税抜き3000円(上下巻セット、ケース入り)。問い合わせは、創元社(06・6231・9010)へ。



## 今日は何の日? 記念日事典改訂

様々な記念日の由来を解説した「すぐに役立つ366日記念日事典」(第4版)＝写真＝が、創元社から発刊された。同書をまとめたのは日本記念日協会の代表理事を務める加瀬清志さん。加瀬さんは1991年に同協会を設立し、記念日の普及活動に取り組んできた。99年(平成11年)に登録されたお菓子の「ポッキー&プリッツの日」(11月11日)が反響を呼ぶなど、記念

## 天体観測 無心のひととき

今年も中秋の名月をめぐる十五夜がもうすぐ来る。子ども頃、十五夜の満月を近所のお兄さんに望遠鏡で見せてもらった。大きな黄色い月の迫力が忘れられなかった。

2年ほど前、夫の実家があり、私の出身地でもある群馬県に引っ越し、澄んだ夜空に星が輝く空を改めて見た。子どもの頃に月を見た記憶がよみがえり、初心者用の望遠鏡を昨年、購入した。最初は取り扱い扱いに四苦八苦したが、最近は少し慣れてきて、理科の教科書でしか見たことがなかった土星の輪、木星のしま模様などを見ている。プラネタ

リウムとは違って、自分で広い空から星を見つけるのは感動的だ。月のクレーターもはっきりと見える。

望遠鏡で見た月をスマートフォンで撮影することもできるようになった。幻想的な写真が撮れたので、友人たちにLINEで送ると喜ばれた。コロナ禍で気持ちがふさぐ中、元気を届けられたように。2階のベランダで蚊に刺されながらも無心に天体観測をする時間は、生活の活力にもなっている。夜空の天気が毎日気になって仕方がない。

(群馬県高崎市・萩原明子 58)